

# あゝ

2005年冬季号 (通巻60号)

発行:財団法人 豊川市国際交流協会

編集:ニュースレター部会

〒442-0878 豊川市新道町1丁目1-3 勤労福祉会館内

☎0533-83-1571 FAX0533-83-1581

(年4回 5・8・11・2月発行)

ホームページアドレス <http://www.yui.or.jp/tia/>

メールアドレス [tia@yui.or.jp](mailto:tia@yui.or.jp)

“思い出の一枚”  
ワールドシヨット

トルコを旅して

諏訪西町2丁目  
岩井 通子



トルコと言えば、トルコ行進曲と、ウスキュダラ（イスタンブールの下町）...はるばる訪ねてみたら世～にも不思議な...という歌と、トロイの木馬、カッパドキア、アジアとヨーロッパの接点でシルクロードの西の果て、という位の知識でしたが、行ってみてびっくりでした。世界遺産は何と6カ所もあり、今回5カ所を見ることができました。まず、ローマ時代からの遺跡であるヴァレンス水道橋。地下宮殿（貯水施設）入り口から階段を下りるとそこは円柱336本が整然と並び地下空間で、夏でもひんやりしていました。カッパドキアは紀元前に栄えた王国で、荒涼たる大地に広がる無数の奇岩群と岩山をくりぬいた住居が見ものです。今も人が住んでおり、中を見学させてもらって、チャイ（紅茶）までいただいてしまいました。キリスト教徒が隠れ住んだカイマクル地下都市は地下8階まであり、多い時は、7～8千人が暮らしたそうです。ブルーモスク、アヤソフィア、トプカ

プ宮殿も本当に素晴らしく、見ごたえがありました。エフェス都市遺跡（ヘレ



ニズム文化そのものの町)には、図書館、浴場、劇場(上の写真。山の斜面を利用して2万4千人も収容することができた)、水洗トイレ、世界最古の娼館もあって、その案内図は石に刻まれていました。クレオパトラが歩いたと言われる大理石の通りもありました。ベルガモンの遺跡には、世界最古の総合医療センターがあり、ローマのカラカラ帝もここで治療を受けたそうです。料理も美味しく、買わないいつものジュータンまで買ってしまっ

# ペルー 親善

### 南米ペルー訪問を終えて

国際交流協会主幹 長嶋 正

成田空港から何とも言いようのない長時間のフライトの果て、午後11時頃ペルーの首都リマ空港に着いた。その瞬間、「やっとペルーに来たぞ」という思いで一瞬心地よかった。それもつかの間その後思いもよらぬ厳しい試練が私たち一行を襲ってきた。5泊8日のペルーの旅は日程に余裕がなく予想外に強行であった。

ペルーの季節は、日本と逆で春から初夏に入りかけて、リマの街では年間を通じて雨が少なく、その日も半袖シャツで十分だった。リマの人たちは、空がどんなに曇っていて暗くても、「雨が降らなければ良い天気だ」とニコニコ笑っている姿は、いかにも南米人らしく陽気で楽しいが、僕にはとても理解できない。

ペルー訪問の目的は、今年3月から開催される愛・地球博「愛知万博」でのフレンドシップ国であるペルーと豊川市との友好を深めることと、ペルーに移住したペルー日系人協会の方々との交流を図ることであった。

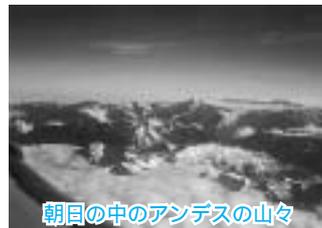
訪問2日目の午前中に、日本大使館とJICAペルー事務所への表敬訪問を済ませ、午後には、ペルー政府貿易観光省アジア局長のアンヘラ・マリック女史に愛知万博参加歓迎の愛知県知事と豊川市長のメッセージを渡し、豊川市への来訪を依頼した。マリック女史は、普段の服装で私たちを迎え入れる部屋のゴミを拾っていて、掃除のおばさんと間違えるほどの気さくな人である。

万博への抱負では、南米アンデスの自然をイメージした大きなプロジェクトが今動き出したところで、ぜひ万博を成功させましようと言っていた。

3日目の早朝、リマの空港から約1時間でクスコ空港に到着した。午前中は標高3400mのインカ帝国の首都クスコの街に慣れるために休息した。クスコの街は、人口30万都市で、アドベといわれる赤茶色の日干しレンガの家が建ち並び美しく、街中や近郊には遺跡や要塞がいくつも点在し、灌漑用水路なども当時のままに残って

いる。建物の基礎であるインカの石組みや石畳、民族衣装を着たインディオを見ると、何百年前の昔に戻ったような不思議な錯覚に陥る。軽快なアンデス音楽演奏を聴きながらの夕食会は最高であった。

ペルーの魅力は行った者でないと分からないことを感じた。世界遺産の一つであるマチュピチュは、アンデス山脈の奥深く、断崖絶壁の山頂に造られたインカ時代の「空中都市」と呼ばれ、2時間かけてガイドの説明を受けながら見学し、ある日突然にインカ民族全員が消えてしまうという不思議なことには驚いた。また、リマから飛行機で1時間南下した街の砂漠で見る巨大な地上絵の「ハチドリ」、「蜘蛛」などは長いもので数キロもあり、セスナ機で地上すれすれから見る光景は絶賛に値する。しかしセスナ機には私も含め数名が酔ってしまった。



朝日の中のアンデスの山々



ペルー政府と参加者

もう一つの目的である日系人会との交流会では、日秘会館で長谷川ホルヘ会長始め大勢の方々に歓迎された。現在8万人ともいわれるペルー日系人が結束を図り会館敷地内に民族資料館や、劇場や病院を建設し、特に病院では多くのペルー人が診療を受けており、ペルー国民のために大きな貢献をしていた。

日系人協会の方々との名残尽きない別れを惜しみながら、深夜リマの空港から成田空港への帰路についた。

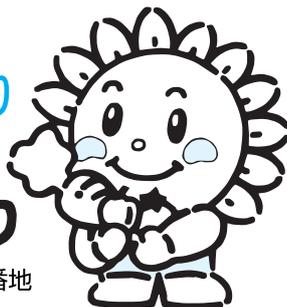
ペルー人の陽気さ、神秘的な国の魅力、ペルー日系人の方々の活躍など今も脳裏に浮かんでくる。今回での使節団の訪問や万博を機会に、どうしたら豊川市とペルーとの交流が在日ペルー人のためにも永く続けられるかを考えさせられる。忘れかけた時もう一度行きたい国、その国はペルーである。

あなたの 身近に  
「ベストな ひまわり」

ひと・夢・いいね。

 JAひまわり

〒442-8517 豊川市諏訪1丁目1番地  
☎(0533)85-3171

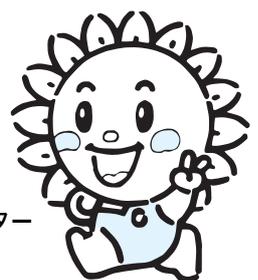


夢の旅へ  
出かけよう!!

旅行のお問い合わせ・お申し込みは

JAひまわり 旅行センター

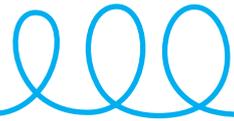
プリオ4F ☎(0533)89-3055  
営業時間/AM10:00~PM7:30



# ペルーのフレンドシップパートナーです。

## 訪問記

10月6日(水)~13日(水)



### ペルー訪問記

為当町 高柳 毅

やや薄い雲がかかる空のもと、マチュピチュの遺跡の中で、ケーナ(竹製の縦笛)を聞けるなんて夢みたいだった。ケーナで「ふるさと」を吹いてくれたのはクスコからガイドしてくれた梅田氏。私たちはその音色にひたりながら歌った。「ふるさと」のメロディーがマチュピチュの山あいにも吸い込まれていった。

愛知万博に協賛して豊川市が選んだフレンドシップ国の1つペルーを訪問する「豊川市ペルー親善訪問団」に参加させてもらった。

名古屋から成田、米国のアトランタで乗りつぎ、リマに着いたのは出発してからほぼ23時間後、さすがにペルーは遠かった。



「クスコ」アルパカと少女と共に



「マチュピチュ」ふるさとのメロディーが流れる

私たちが訪れることができたのは、アンデスの高地にある都市「クスコ」と空中都市といわれる「マチュピチュ」、太平洋岸の大都市「リマ」と砂漠の真ただ中にある「ナスカ」の4つだけであった。

クスコは故インカ帝国の都、赤っぽい山々と同色のトーンの建物群で落ち着いた雰囲気だが、何しろ標高3400mもの高地である。標高100m程のリマから、いきなり空気の薄い場所に立ったので当然ソローチェ(高山病)にかかり青菜に塩みたいに元気がなくなる人も出た。夜はレストランでフォルクロ・レのライブショーを楽しみながら、アルパカやクイの肉を食べた。

マチュピチュへはクスコから高原列車で4時間。クスコ駅から市街を見おろす峠まで、スイッチバックを繰り返しながら登り、峠から下り坂となる。半世紀前の日本

の風景を見るように、畑でこども達がならんで鍬をふるい牛が草を食んでいた。それから一転、両側にそそり立つ岩山がせまる狭い峡谷を下って、アグアス・カリエンテスに着く。バスに乗り換えつづれ折の急坂を駆け登るとマチュピチュの入口である。標高2500mの尾根の上にびっしりと石造りの神殿、宮殿、住居や農作物栽培用のテラス(段々畑)がならぶ。こんなところにこんなものを造った人達の知恵と労力を想うと圧倒される。

飛行機でクスコ リマ ナスカへと飛ぶ。景色は見えず限りの砂、砂、砂...砂漠の中のナスカに降りる。

「ナスカの地上絵」は3人ずつセスナに分乗し、順に45分のフライトで見学する。最初は喜んでいて客もだんだん気分が悪くなり無口になってくる(飛行機酔いのため)。「地上絵」を見るのも大変だった。



「クスコ」大聖堂の前



「リマ」中央市場

オプションでリマの旧市街観光をする組と全くフリーに行動する組に分かれ、私は後者の方に入れてもらって旧市街を歩き回った。乗ったタクシーはオンボロ、メーター類は全く動かず、おまけに3車線の道の真ん中でバンク。大きな中央市場の中に入り買い物をしたり、スタンドでうどん?を食べたりいろいろな体験をして楽しんだ。やはり旅は、街を歩いてその国の人々と接することに意味があると感じた。

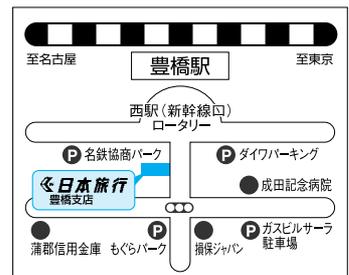
フリータイムの後集合、全員で「ペルー日系人協会」を訪問した。ペルーへの日本人移民は1899年に始まった。105年の間に、彼らが様々な困難をどのように乗り越え、ペルー社会にとけ込むためにどんな努力を積み重ねてきたか、資料館や劇場、病院などを見学した。以上で今回の旅全日程が終了、リマ空港へ向った。

## 日本旅行 豊橋支店

国土交通大臣登録旅行業 第2号/JATA(社)日本旅行業協会正会員  
ボンド保証会員/旅行業公正取引協議会会員

〒441-8013 豊橋市花田町一番地180  
TEL 0532-33-7910  
FAX 0532-33-7929

受付時間/平日 10:00~18:00  
定休日/土曜・日曜・祝日



◎駐車場案内/まちなかパーキング(共通駐車場券)  
ご旅行お申込み・お買上げのお客様に限らせていただきます。  
市JR券、航空券、バス等の交通券のみのお買上げは除かせて頂きます。

## 万博版文化講座 「フィリピン・ペルーってどんな国」を開催

協会では昨年11月20日勤労福祉会館大研修ホールにて、豊川市と共催で「フィリピン、ペルーってどんな国」文化講演会を開催しました。いよいよ3月から開催される万博では、豊川市はかねてWe紙上でお知らせのようにフィリピンとペルーのフレンドシップ国を務めます。両国を少しでも多くの人に知ってもらおうと企画されたものです。入場者は240人の盛況でした。

フィリピンの講師は万博パビリオン館ディレクターのアラセリ・C・ソリアーノさんでした。スライドを使って、美しい海、首都マニラの経済の中心地マカティ地区の様子、マニラ空港、きらびやかな乗り物ジープニー等を紹介されました。

ペルーの講師はミゲル・アンヘル・藤田さんでした。ミゲルさんはスペイン語新聞のインターナショナルプレ

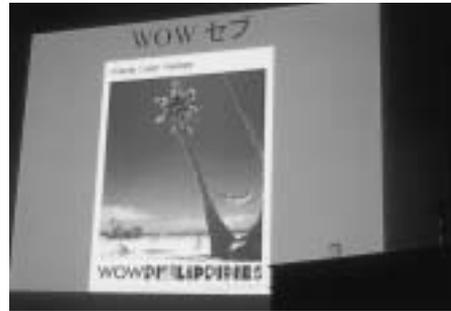
ス紙の記者で、市内在住です。まず、年表を使ってペルーの歴史から話し、数多くある世界遺産に移りました。おなじみのマチュピチュ、クスコの街、チャンチャン遺跡、ナスカの地上絵、上質な毛が採れる動物ビクーナ等を紹介されました。

今回、ティータイムにはペルーのフォルクローレ演奏と民族舞踊、フィリピンの歌と踊りが紹介されました。特にペルーの民族舞踊は協会のラテンアメリカサークル員の子供達が出演して、可愛い踊りを披露してくれました。フィリピンのドリンクとペルーのクッキーの提供もありました。

会場の両側では、両国の民族衣装、工芸品、写真パネルの展示もあり、両国を理解する上で大きな役割を果たしていました。



フィリピンの講師はパビリオンディレクターのソリアーノさん。



海を筆頭に観光地はたくさんありました。



ペルーの講師のミゲルさん。スペイン語新聞の記者でもあります。



フィリピンのダンス。踊りは留学生のネリサさん(左)とノエルさん。



ペルーの踊りはサークルの家族の子供たちでした。かわいい！



会場では万博グッズの販売や両国の展示も行われました。

### 小柳津えみ行政書士事務所

入管手続・帰化申請・内容証明  
遺言書・相続手続・許認可申請

豊川市御油町栗木山152  
TEL 0533-80-1801  
FAX 0533-80-1802  
E-mail emi@fb3.so-net.ne.jp

世界の旅

国内の旅



パッケージツアー  
航空券・海外ウエディング  
旅館・ホテル・観光バス  
個人から団体まで  
かわしんグループ  
ジェイティービー代理店



### 豊伸トラベルサービス(株)

営業時間 土・日も営業 豊川市諏訪3丁目302(プリオII1階)  
AM10:00~PM8:00 0120-857716  
☎(0533)89-7716 FAX89-8233

# ペルーのフレンドシップパートナーです。

## フィリピン・ペルーPR展を開催しました

12月7日(火)から19日(日)まで



パイナップルの繊維でできた衣装



ルソン島エロコ州の織物

豊川市の愛知万博フレンドシップ国のPR展をプリオ5階催事場で開催しました。期間中の入場者は延べ500人を越え、特に土・日曜日は家族連れも多く、大変にぎわいました。フィリピン・ペルー両国の民族衣装や民芸品の展示とともに、各種万博グッズも即売しました。

フィリピンコーナーでは、パイナップルの繊維でできたバロンという民族衣装、ルソン島エロコ州の高級織物、木彫りの民芸品などを展示しました。また、世界遺産のパナウエ・ライステラス、チョコレート・ヒルなどをパネルで紹介し、観光パンフレットを無料配布しました。

ペルーコーナーでは、アンデスの美しい民族衣装、フォルクローレ楽器、色鮮やかなネックレスなどのアクセサリーを展示しました。また、世界遺産のマチュピチュ、ナスカの地上絵、古都クスコの名所旧跡などをパネルで紹介しました。



アンデスの民俗衣装



ペルーを紹介したパネルと民芸品のコーナー



プリオ5階のフィリピン・ペルーPR展会場



NECワープロ・パソコン専門店  
文具・事務用品・紙製品  
スチール家具・OA機器



有限会社 **するが屋**

豊川市光明町2-7

☎(0533)86-2509 FAX(0533)86-2299

# 村松書店

〒442-0041 豊川市旭町62番地

TEL (0533) 86-3810

FAX (0533) 86-2682

E-mail add.

mbooks@amitaj.or.jp



# ワールドフェスティバル



昨年12月12日(日)午後1時から、勤労福祉会館大研修ホールにてワールドフェスティバルを開催しました。第7回目となる今回は先回を上回る300人の参加があり、過去最高の人数となりました。

## 7カ国の競演

今回のプログラムではブラジル・中国・アメリカ・フィリピン・ペルー・パラグアイ・そして日本と、実に7カ国からの参加がありました。特に中国からの研修生の方々が歌ってくれた日本語と中国語の歌、日曜日返上で猛特訓したというフィリピンのフォークダンス、日本人グループによるパラグアイの民族楽器アルパの演奏は初めて見聞きした方も多く、たいへん好評でした。もちろん日本の伝統文化も負けてはいません。本格的な三味線の演奏を聞かせてもらいました。そして毎年おなじみとなったサンバエストレーラ、ペルーの歌と踊り、フラダンスもこれまでも増して大活躍しました。



中国のみなさん



フィリピンのフォークダンス

のモリゾーとキッコロスタイル(?)も光っていました。

## 幸運は誰の手に?

フェスティバルには欠かせない福引。折りたたみ自転車、セラミックヒーター、ベジタブルスライサー、お米、ワインなど、各方面からの寄贈によりたくさんの賞品が用意され、100人近くの方々が一足早いクリスマスプレゼントを受け取りました。

## ～聞いてみよう裏方事情～

今回で第7回目となった年末のフェスティバルですが、企画・運営はどのようになされているのでしょうか?そこでワールドフェスティバル実行委員会代表の星川典男さんにインタビューしてみました。

**ニュースレター部会(以下N)** 毎年年末に行われるワールドフェスティバルですが、いつ頃から何人位で計画を立て始めるのですか?

**星川典男さん(以下H)** 8月末から、15人位のスタッフで計画しました。

**N** 本番までに何回位打合せをしたのですか?

**H** 月2回位のペースで、計7回の打合せを行いました。

**N** 今年は7カ国もの出し物がありましたが、プログラムを決めていく上で一番たいへんなのはどのような点ですか?

**H** 良い出し物がたくさんあり、何を披露してもらおうか決めるのに困りました。時間配分にも悩みました。

**N** いざ本番。多くのスタッフ達が会場の内外で忙しそうに動き回っていますが、どのような点に一番気を遣いますか?

**H** 進行がスムーズにいくように、みなさん全員に楽しんでもらえるように考えました。

**N** 最後に、今回のワールドフェスティバルはいかがでしたか?

**H** 出演者、参加者、スタッフ、みなさんのおかげでも楽しい会ができました。ありがとうございました。今年も楽しい会をみなさんの手で作らしましょう。

**N** 楽しいフェスティバルを実現するために、多くの方が早い時期からたいへんな努力をされていたのですね。スタッフのみなさん、本当にご苦労様でした。これからもよろしくお願ひします。ありがとうございました。



良質生活アピタ  
アピタ豊川店

豊川市開発ビル株式会社  
豊川市諏訪3丁目133番地  
TEL(0533)89・3000



# マレーシアの中・高校生が来豊

青年招へい事業で来日したマレーシア青年の帰国後の組織「バマジャ」によるジュニアフレンドシッププログラムが無事終了しました。中学・高校生24人とコーディネーター2人は、去る12月5日(日)来豊しました。一行は協会会員等の家庭にホームステイしながら、自然探勝や学校訪問を行い、友情を深め、9日(木)別れを惜しんで豊川を後にしました。関係した皆さんにはご協力大変ありがとうございました。

ホームステイを引き受けた土方親さんとプログラムに同行した大塚佳希さんに、感想文をお願いしました。

## マレーシアからの少年使節を迎えて 行明町 土方 親

10年ほど前、国際交流協会の依頼で、マレーシア青年のホームステイを引き受けたことがある。それが縁で、今回市内にいる孫たちを交えて、2人のマレーシア少年と交流したので、その一端を述べてみる。

夜行で名古屋に着いたので疲れているだろうと思い、初日は外食してから拙宅に案内した。玄関に入った途端「ワンドフル！」それは畳、障子、欄間が一度に目に入ったからだ。すぐさま「写真を撮ってもいいか？」と言って、家の中をカメラに収める。玄関で履物をそろえることを教えようと思っていた孫たちは、彼らの履物がきちんとそろえられているのにびっくり。食後に食器を流し台まで運ぶことも教えてあげようと思っていたのに、これも予想外の展開となる。「ごちそうさま」と言って、自分で食器を運んだからだ。

思えば、こちらが気を遣ってもらっているというような感じさえする好少年たちだった。私は、自分の5人目と6人目の孫ができたような錯覚を覚えた。貴重な体験をさせていただき皆さんに感謝したい。



ホームステイの団らんのひととき

## すばらしいマレーシアの少年少女 八幡町 大塚 佳希

この4日間を通して、本当にすばらしいと感じたのはマレーシアの多民族国家の文化とも言える“周りの人に対して、人見知り無く自然に接する”ことでした。特にそのことを強く感じたのは、鳳来寺山へ登った時のことでした。マレーシアは、高低の差があまりない国土らしく、山登りする習慣がないそうです。持病を持っている子どももいて、それぞれ体力も違い、本堂まで厳しい道のりでした。そんな中、すれ違う



パーティーを楽しむ少年少女

人々に気軽に覚えたての日本語で「こんにちは」とあいさつする子どもの姿がとても新鮮で心に残りました。

南部中学校訪問でも、日本の中学生とすぐ順応し、限られた時間をとても楽しく過ごしていました。また、さよならパーティーで涙を流したのも、たとえ短い期間であっても、ホストファミリーのかたがたと充実した時間を過ごした証拠ではないかと思います。

私は、異文化の受け入れや適応も、やはり多民族国家の文化が出ていると思いました。私自身、貴重な体験をすることができ、この機会を与えてくれた国際交流協会のボランティアの皆さんに心からお礼申し上げます。

### 国内旅行・海外旅行

お問い合わせ、申込みは  
旅行の総合デパートを目指す  
当社へ是非お願いします

## (株)トラベル東海

豊川市三蔵子町一里塚41-4  
(0533) 84-7115(代)

### 趣味の民芸・土産・造花フラワー店

(株)林電工



## 恋のれん結び堂

造花フラワー師範 林 叔子

〒442-0027 豊川市桜木通5丁目1番地 ☎(0533)85-9977



## INFORMATION

### 文化講座「インドってどんな国」

インドといえばカレー料理とヨガ、だけではありません。10億人以上が暮らす、多様性に富んだ国インドについての理解を深めませんか。

日時 2月19日(土)  
14:00～16:00

場所 勤労福祉会館視聴覚室

受講料 会員 300円  
一般 500円

定員 40名

講師 第35代なごや民間大使

ユニヤル・アルチャナさん

内容 インドの歴史、文化、習慣をはじめ、穴場の観光スポットなどについてのお話を聞きます。ブレイクタイムにはインドのお茶チャイとお菓子サモサを試食します。民族衣装サリーの試着もあります。

申込み 電話で協会事務局へ。先着順。



### 万博版世界の料理教室 フィリピン料理

昨年10月に開催した「万博版世界の料理教室ペルー料理」に続き、今回はもう一つの万博フレンドシップ国フィリピンの料理教室を開催します。

日時 3月6日(日)  
10:00～

場所 勤労福祉会館 調理実習室

定員 40名

参加費 無料

講師 片桐早苗さん

福田フェロミナさん

内容 焼きピーフン、えび春巻きなどを作ります。

申込み 電話で協会事務局へ。先着順。

## 事務局職員の異動

国際交流員の加藤裕美子さんが12月14日付で退職されました。9カ月という短い期間でしたが、会員の管理やWeの発送などを担当し、協会のボランティア活動を支えてくださいました。ありがとうございました。

## おかげさまでWeも60号

豊川市国際交流協会の機関紙Weも今回で通巻60号となりました。第1号は1990年4月1日に協会が財団法人としてスタートした時に発行しています。それ以前は単に「豊川市国際交流協会会報」という名前で4回だけ発行しています。記念すべきWe第1号の内容を見てみると...

ページ数は全部で8ページ。現在と同じページ数ですね。大きさはB5判。表紙を飾ったのは、現在も大人気の料理教室の写真です。この時は台湾出身の先生に台湾の家庭料理を教えてくださいました。2ページ目からは法人化された



We第1号の表紙

協会の今後のあり方について、19名の会員への電話インタビュー、会員からの投稿などが載っています。そして「INFORMATION」のコーナーも第1号からあります。Weのバックナンバーをご覧になりたい方は協会事務局にありますので、いつでもどうぞ。協会の歴史をかいま見ることができますよ。

来年度は協会が15周年を迎えます。一つの節目の年を迎え、今後も会員の皆様への情報誌として、また協会活動の記録を残すためにも、よりよい機関紙を作っていきたいと思っています。そのためには皆様のご協力が不可欠です。こんな記事を書かせてほしい、もっとこうしたらどうか等、ご意見がありましたらどしどしお寄せください。お待ちしております。

豊かなくらしのお手伝い



# 豊川信用金庫

本店 豊川市末広通3丁目34番地の1 ☎(0533) 89-1151(代)